

鹿児島医セン

連携室だより

2008.6 No.27

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

当院での骨髄移植について

当鹿児島医療センターでは2001年10月に血液内科が新設され、現在ではスタッフも医師5名となり、40名前後の入院患者を診療しています。開設以来、旧病棟で自己末梢血幹細胞移植、同種末梢血幹細胞移植を施行してきましたが2004年10月に新病棟のオープンに伴い西4階病棟に無菌室5床を整備し、血縁者間の骨髄移植も可能となりました。

造血幹細胞移植には大きく分けて悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の治療に用いる自己末梢血幹細胞移植と白血病や再生不良性貧血の治療に用いる同種造血幹細胞移植があります。同種移植ではHLAという白血球のタイプを一致させる必要がありますが、兄弟間ではHLAが適合する確率は25%、両親や親戚では1%以下、他人同士では数百～数万人に1人の確率と考えられています。最近ではHLAが完全に一致しないミスマッチの移植も行われることがあります。また同種移植には従来から行なわれていた骨髄破壊的移植と移植前処置を軽くした骨髄非破壊的移植（ミニ移植）があり、ミニ移植では合併症を持つ方や以前は移植可能年齢でなかった50歳代後半から60歳代まで可能となり移植対象者の幅が広がってきました。

当院では現在までに自己末梢血幹細胞移植を悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・急性白血病や乳癌、横紋筋肉腫に対し23例、同種末梢血幹細胞移植を6例、同種骨髄移植を9例施行しました。血縁者間の移植と骨髄採取症例数、また施設基準をクリアし2008年3月4日に骨髄移植推進財団の移植施設の認定を受け、骨髄バンクを介した非血縁者間の骨髄移植が可能となりました。施設認定がおりるのをずっと待たれていた当院第1号の非血縁者間骨髄移植も無事終了し先日お元気に退院されました。

このように移植症例が増加し西4階病棟では医師、看護師に薬剤師、栄養士も加わり移植チームをつくり、チーム医療に取り組んでいます。また無菌室というと家族との面談もガラス越しで電話で話すというイメージがあるかもしれませんが、西4階病棟の無菌室は桜島の全景が望める



血液内科スタッフ



無菌室

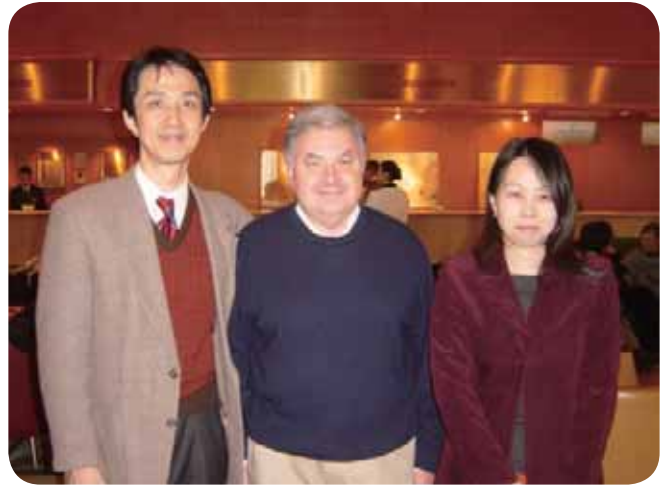
広い病室で、病室内にトイレとシャワー室を備え、またご家族の付き添いも可能としました。ご家族にもチームの一員として加わっていただき、移植中の患者様の身体的、精神的にサポートしていただけるようにと考えています。

最近、血液疾患は移植医療だけでなく、B細胞リンパ腫に対するリツキシマブ、慢性骨髄性白血病に対するイマチニブ、多発性骨髄腫に対するボルテゾミブなどの分子標的治療の開発、導入で治療は劇的に変化してきています。より多くの治療法の中から一人一人の患者様に最適な治療が提供できますようにスタッフ一同努力していきたいと考えております。（文責 内科医長 大塚真紀）

臨床研究部の市来智子先生が 医学博士の学位を取られ、アメリカ留学が決定しました。

鹿児島医療センター臨床研究部には、平成16年7月から鹿児島大学大学院生の市来智子先生が研究生として参加しています。臨床研究部ではこれまで3年間、市来先生の医学博士号取得のための研究のお手伝いをしてきました。ELISAを用いた急性心筋梗塞におけるサイトカインの病態生理学的研究や頸動脈内膜切除切片の免疫組織化学的染色などの臨床研究を進めてもらうとともに、分子生物学的手法、ウェスタンブロッティング、ゲルシフトアッセイなどの技術を使った細胞培養の基礎研究にも着手してもらい、臨床と基礎の2段がまえで研究してもらいました。そしてこれまで研究した内容をまとめ上げ、Journal of Cardiology の2007年8月号と American Journal of Physiology Heart and Circulatory Physiology の2008年2月号に英文論文を掲載することができました。平成20年2月12日、これらの研究により鹿児島大学大学院の学位を取得できることが正式に決まりました。博士号の題名は「急性心筋梗塞症における血漿 Soluble glycoprotein 130濃度の検討」です。市来先生本人は元より病院にとっても大変名誉なことであり、当院で行った研究が世界に通用するものである事を示してくれました。また、当院でも頑張って研究すれば、学位を取得できることを示した良い先駆者となりましたので、若い先生方も是非、続けてもらいたいと思っています。

当院での3年間の研究により医学博士となった市来医師には嬉しい事が続きます。それは平成20年4月から海外に留学する事が決まった事です。小生は平成6年から平成13年まで、アメリカ合衆国ミネソタ州にあるメイヨークリニックのバーネット教授のもとに留学し、直接教えていただいた縁がありました。以前、バーネット教授にお会いした時に、鹿



右から市来先生、バーネット教授、筆者

児島医療センターの臨床研究部で基本的研究方法を学んだ人であれば、メイヨークリニックの研究室に留学させてもらえる事を約束していただいております。平成20年1月31日、バーネット教授が大阪に来られ、講演をされる機会がありましたので、市来先生をバーネット教授に紹介し、メイヨークリニックへの留学を正式に承認していただきました。しかもアメリカ留学中の給料は2年間メイヨークリニックから支給されるというすばらしい条件付きでした。これで鹿児島医療センターからメイヨークリニックへの留学の道が開けたわけで、第2、第3の学位取得者および留学生在が鹿児島医療センターから出てくれる事を期待しています。最後になりましたが、市来先生の学位取得・海外留学に関しましては、院内の各部署の御協力を戴きました。また院内・外の諸先生方の御指導もいただきました。誠に有難うございました。『市来先生、学位おめでとうございます。アメリカでも頑張ってください。』

(文責 臨床研究部長 城ヶ崎倫久)

登録医療機関紹介 第13回

医療法人尚愛会 小田原病院

当院は、昭和11年鹿児島市山之口町（現在地）で小田原医院として開業以来、第二次世界大戦による戦火からの復興を含む幾多の変遷を重ねながら、昭和57年3月個人経営から医療法人立に改組し、翌昭和58年8月8日医療法人尚愛会小田原病院として、一般病床28床で開院致しました。

開院後は、人口構造・疾病構造の変化や国の医療政策等を総合的に勘案しつつ、以下のような歴史を辿り、施設の整備拡充や内容の充実を図ってまいりました。



- ・昭和58年 8月 28床から52床へ増床
- ・昭和59年 3月 52床から63床へ増床
- ・昭和60年 8月 患者夕食午後6時配膳開始（鹿児島県第1号）
- ・昭和61年 12月 63床から115床へ増床
- ・昭和63年 11月 患者給食選択メニュー実施
- ・平成 2年 7月 始良郡隼人町に分院開設（隼人尚愛会病院 80床）
- ・平成 6年 3月 療養型病床群設置 病床数 115床から99床へ
- ・平成14年 7月 病床区分種別変更届出 一般病床22床・療養病床77床
- ・平成19年 9月 病床区分種別変更届出 一般病床44床・療養病床55床

当院では急性期医療を積極的に行う一方、急性期を脱し安定した状態にある脳血管障害の患者さんを初め、様々な病態の患者さん方を他の急性期医療機関から受け入れており、微力ながら地域医療・地域連携の一翼を担っているものと自負しております。

鹿児島医療センターへは、当院患者さんの病状急性増悪時に快く受け入れていただき感謝致しております。また、今後は「鹿児島県地域ケア体制整備構想」の策定等もあり、更に緊密な連携が必要ではないかと思っております。

これからも現在の運営形態の維持向上を図りつつ、地域医療に貢献してまいりたいと考えておりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

副院長 牧 猛

関連施設

- ・医療法人尚愛会 隼人尚愛会病院（80床）
- ・医療法人尚愛会 認知症対応型通所介護「ひだまり」
- ・医療法人尚愛会 介護付有料老人ホーム「悠楽館」平成20年8月オープン
- ・社会福祉法人佳成会 介護老人福祉施設「ケアガーデンてらやま」（50床）

新new任 紹face介



産婦人科医師

ぎ ぼ あ き こ
儀 保 晶 子

平成 15 年鹿児島大学卒業です。産婦人科へ入局し、今年で6年目になります。

今年の3月から医療センターに勤務させていただくこととなりました。今までどちらかという産科主体に研修してきたので、今回婦人科腫瘍の患者様の多い病院に配属になり、診療において悩むことも多いですが、部長やスタッフのみなさんに御指導いただきながら頑張っております。ご迷惑をかけることも多いかと思いますが、よろしくお願ひいたします。



東 7 病棟看護師長

た な か や す こ
田 中 康 子

はじめまして、東7階病棟看護師長の田中康子と申します。

4月の配置換えにより長崎病院から転勤して参りました。4年ぶりの急性期病院勤務で、DPC・看護必要度導入と初めての経験であり、医療の早さに乗り遅れないよう努力していきたいと思っています。

鹿児島の地は初めてであり地図を片手に駆け巡っております。いろいろ皆様にはご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、宜しくお願ひ致します。



外来看護師長

あ り も と ゆ う こ
有 本 祐 子

平成20年4月1日付けで加治木の南九州病院より昇任で参りました。前病棟は神経内科病棟で、副看護師長として4年間「患者様と家族に寄り添う看護」をモットーとして業務改善などを行って参りました。

医療センターは急性期の病院なのでスピードについて行けるか不安な上、外来勤務は初めてですが、外来患者様が気持ちよく診療が受けられるような環境作りに努めて参りたいと思います。未熟者で皆様にご迷惑をおかけすることも多々かと思いますが、ご指導とご鞭撻をよろしくお願ひ致します。



薬剤科長

こ ば や か わ
小 早 川 高 徳

4月より国立都城病院より転勤して参りました。薬剤科長職は初めてで、まだまだ慣れず周りの皆様にご迷惑をお掛けしておりますが、早く職場の雰囲気溶け込み、皆様のご期待に添えるように頑張りたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願ひします。

単身生活8年半を経過し、初めての鹿児島ですので、いろんな意味でワクワクしています。薬剤科はフットワークを大切にしていますので、気軽にお声をかけて頂ければと思っております。



東 6 病棟看護師長

う え だ り え
上 田 利 恵

平成20年4月1日付けで熊本再春荘病院より配置換えでまいりました。これまで

は、循環器科、血液内科、整形外科、外科、神経難病の病棟と外来勤務の経験があります。循環器科には新人の頃に勤務して参りましたが、医療の進歩には驚くばかりです。看護の基本を大切に、活き活きとした看護実践ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



副理学療法士長

さ か も と ひ ろ き
坂 本 浩 樹

今年4月よりお世話になって参ります。これまで国立熊本病院(現熊本医療センター)、熊本再春荘病院に勤務して参りました。今回、活気ある鹿児島医療センターに勤務できることを光栄に思ひます。急性期病院として効率的で質の高い訓練を行い、患者様に喜ばれるリハビリテーションサービスを提供していきたいと考えて参ります。まだまだ不慣れであります。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたします。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福
直通電話 ▶▶ 099-223-4425
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
※休日・時間外は当直者で対応します。

